

# NPO ちゅうぶ防災一泊体験

ゆめ風基金 阿部 俊介

2月6日(金)、大阪市東住吉区にある「NPO ちゅうぶ」で行われている災害時を想定した『防災一泊体験』に参加しました。

NPO ちゅうぶは、2011年～2012年にかけて、被災地支援として、宮城県にスタッフを派遣しており、その経験から独自で夏・冬の年2回『防災一泊体験』開催しており、宮城県出身の僕との接点もあって、お声掛けいただき参加させてもらいました。

当日の参加者は25名。実際に宿泊したのは13名。車いすユーザーは、僕を含め3名でした。

今回の宿泊体験では、グループワークとして東日本大震災の体験を通し、当事者・支援者という双方の視点から感じたこと、実際に直面した問題を振り返り、意見交換もしました。

## 【食事、空調設備のこと】

災害時を想定しての体験内容のため、18時以降は水道・電気共に使用しません。

トイレも1Fに三か所ありますが、その内一か所は黒いビニール袋を設置し、用を足し終わったら凝固剤（給水ポリマー）をかけて使用します。

ランタンや備蓄してある水を使用し、夕食準備をしました。この日の献立は防災鍋ということで「きりたんぼ鍋」と、宿泊者には災害時用の防災備蓄の水を一人一本もらいました。夕食を囲みながら今回の感想や改善点、個々で日々どのような物を備蓄し、備えているかなど、団欒も交えながら食しました。

今回は冬の体験で、暖房は石油ストーブを中央に置いて暖をとるだけでしたが、それが結構暖かく、東日本大震災の時、避難先で石油ストーブが2台あり、毛布にくるまりながら過ごしたことを思い出しました。

## 【就寝に関すること】

就寝時、ストーブはつけたままだと危険なので消して寝ましたが、結構寒くて寝袋だけしかないのではほとんど寝れませんでした。

寝具に関しては、去年の夏に行った防災体験では、段ボールベッドを使用しましたが、今回はマット・畳マット・寝袋が準備され、僕は持参したエアーマットを使用しました。

エアーマットは予想以上にブヨブヨしていて動きにくく、寝返りをうつのが大変で寝にくかったです。また、夜中にトイレで起きた時、エアーマットから車椅子へ移乗するには座位が保てず、同行のヘルパーに介助してもらいましたが、立ち上がるのが困難で危ないので、座りながらトイレまで這って行き、トイレの手すりに掴まりようやく便座に座ることができました。これは想定外で少し焦りました。

トイレから戻り、寝床に移るのにヘルパーに寝袋を整えてもらい再び寝袋に入りましたが、障がいがある人が寝袋にきちんと入って寝るのも一苦労だとわかりました。それと身動きが出来ない。

## 【朝食のこと】

朝食は、防災飯の湯煎で温めて食べるリゾートが三種類の味があり、それぞれのグループで食べました。僕が食べたのは洋風リゾートで、卵を中に混ぜて食べましたが意外なほど美味しくてびっくりしま

した。それとフリーズドライの味噌汁も飲みましたが、災害時にお湯さえあれば食べることができるので備蓄しておくのが便利だと感じました。今の防災飯は普通に食べる食品と変わらず美味しく食べられました。

朝食も食べ終わり、片付け。帰り支度をして予定通り 10 時過ぎには挨拶をして帰宅しました。

#### 【体験してみて】

今回の体験もとても勉強になりました。災害時にも生かせると思います。NPO ちゅうぶさんは、本当に防災意識が強く備蓄も行政なみにあり驚きです。

ここまで意識の高い障がい者団体はないと思います。防災の事を考えられる事業所は、見学させていただくのもよいのではと思います。